

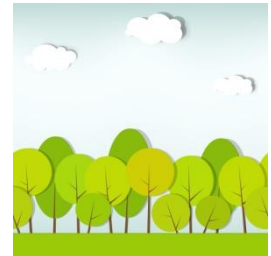
# 「二兎を追う」

～ 売り上げ増とCO<sub>2</sub>減少の両立 ～

アシックスの経営戦略の柱の中に「サステナビリティ」(持続可能性)の考え方があります。これは、環境や社会への影響を考慮して長期的な事業活動につなげることを意図しています。一時的に多くの資源を使って増産・利益増加をしても、資源が枯渇したり環境を汚染がなされているはその事業活動を続けて行くことはできなくなります。そうではなく、いつまでも続けて行くことができる事業活動をおこなうことが「サステナビリティ」の考え方です。

## 2020年に向けたアシックスのサステナビリティ戦略

- ・事業所の CO<sub>2</sub>(二酸化炭素)排出量を 15 年比 5%削減
- ・生産委託先工場の CO<sub>2</sub>、水、廃棄物の排出量を靴 1 足当たり 15 年比 10%削減
- ・事業所からの廃棄物の 98%を再利用またはリサイクル
- ・グローバルでのアシックス人事管理システムおよび労働環境の確立



国内のいくつかの工場であれば、本社が管理してエネルギーの利用実態や二酸化炭素排出量を監視することも可能ですがアシックスの生産委託先は世界中にあります。そこで国内外 10 社の担当者でのテレビ会議を行い、エネルギー管理のクラウドシステム運用についての説明を行ないました。

※エネルギー管理のクラウドシステム＝フランスのシュナイダーエレクトリック製のシステムで、電力や天然ガスなどのエネルギー使用量をはじめ、廃棄物の量など 16 項目を入力するようにしている。アシックスでは、工場や直営店、倉庫、事務所など世界 31 カ国の 466 カ所の拠点に導入した。

生産委託先にとっては、このクラウドシステムの作業が新たな業務として加わることとなります。そのことで業務の負担増を感じないように削減の結果が「見える化」できるシステムとなっています。

CO<sub>2</sub>(二酸化炭素)削減の成果や省エネの効果は考査の点数や試合の結果のようにはっきり見えるものではありませんでした。しかしそれを「見える化」することで、担当者のモチベーションが上がりはじめたのです。一人ひとりの意識改革の積み重ねが社内全体に広がることで、アシックス全体として高い目標の達成につながっていくのです。

